

SHOW HEY シネマールーム

★★★

ナイルの娘 4Kデジタル (尼羅河女兒) (Daughter of the Nile)

1987年/台湾映画

配給: エンボディメント・フィルムズ/90分

2018 (平成30) 年 7月14日鑑賞

シネ・ヌーヴォ

Data

監督: 侯孝賢 (ホウ・シャオシェン)

出演: 楊林 (ヤン・リン) / 高捷 (カオ・ジエ) / 楊帆 (ヤン・ファン) / 崔福生 (ツイ・フーシオン) / 李天祿 (リー・ティエンルー) / 辛樹芬 (シン・シューフェン)

■ショートコメント■

◆台湾のホウ・シャオシェン (侯孝賢) 監督は、『悲情城市』(89年) (『シネマ17』350頁) で有名になる直前までは「台湾ニューシネマ」(初期)の代表として、『冬冬の夏休み』(84年) (『シネマ38』229頁) や『恋恋風塵』(87年) (『シネマ38』233頁) のような、「自伝的四部作」と呼ばれる“青春もの”を作っていた。そんなホウ・シャオシェン監督の“転換期”ともいえる1987年に作られた本作は、それまでの非スター俳優を中心に据えた映画作りと違って、当時のアイドル歌手であるヤン・リン (楊林) を主演に据え、レコード会社の出資を受けて制作したものだ。それは、それまでの台湾の映画作りを一手に担ってきた「中央電影公司」という“半官半民的”な映画製作会社のトップが入り替わったこともあって、同社と縁を切り、一定の商業性を担保せざるを得なかったためらしい。そんな事情もあって、本作の評価はそれほど高くないが、さて・・・。

◆台湾は日本の植民地だったから、日本の影響が大きいのは当然だが、日本の細川智栄子作の人気漫画『王家の紋章』は台湾の若者にも大人気だったらしい。もっとも、それは『ナイルの娘』と呼ばれる海賊版だったが、昼間はケンタッキーフライドチキンでアルバイトをしながら夜間学校に通っている女の子、シャオヤン (曉楊) (ヤン・リン) は、その漫画が唯一の心の拠りどころだったらしい。もっとも、そう言われても私は『王家の紋章』が何の物語なのか全く知らないから、最初から本作への共感性が薄れてしまう。シャオヤンが思いを寄せている男はアーサン (阿三) (ヤン・ファン) だが、彼はヤクザの女に手を出していたから、ちょっとヤバい。また、シャオヤンの兄、シャオフアン (曉方) (カオ・ジエ) は父親と対立しながらレストランの経営に乗り出したが、さて、その経営は・・・？

『恋恋風塵』はさわやかな青春群像劇だったのに対して、本作はどんどん悲劇的な結末に向かっていく青春群像劇になっている。また、本作ではやけにタバコを吸うシーンが多い。主演女優ヤン・リンの魅力的な顔立ちが際立っているから、それなりの興味を持って鑑賞できたが、たしかに映画の出来としてはイマイチ・・・。まあ、どんな監督でも全てが成功作だけとはいかず、たまには失敗作も・・・。2018 (平成30) 年7月20日記